

平成23年社会生活基本調査 生活行動に関する結果

この概要は、平成23年に実施された「平成23年社会生活基本調査」のうち、今回総務省統計局から公表された「生活行動に関する結果」（自由時間等における過去1年間の主な活動に関する結果）について、熊本県関係の主なものを取りまとめたものである。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分及び自由時間における主な活動（「学習・自己啓発・訓練」、「ボランティア活動」、「スポーツ」「趣味・娯楽」及び「旅行・行楽」）について調査し、仕事や家庭生活に費やされる時間、地域活動等への関わりなどの実態を明らかにし、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的とするものである。

この調査は、昭和51年の第1回調査以来5年ごとに実施され、今回の調査は8回目に当たる。

(2) 調査の期日

平成23年10月20日現在

(3) 調査の対象

平成17年国勢調査の調査区から、総務大臣の指定する6,902調査区の中から選定した約83,000世帯（熊本県は約1,600世帯）に居住する10歳以上の世帯員を対象とした。

(4) 調査事項

- ①1日の生活時間の配分に関する事項
- ②過去1年間の生活行動に関する事項（学習・研究、ボランティア活動、スポーツ、趣味・娯楽、旅行・行楽）
- ③ふだんの就業状態等世帯員の属性に関する事項
- ④住居の種類等世帯の属性に関する事項

2 結果の要約

○学習・自己啓発・訓練

- ・1年間に「学習・自己啓発・訓練」を行った人は47万9千人、行動者率は30.2%で全国より5.0ポイント低い
- ・行動者率は「介護関係」、「英語以外の外国語」で5年前より僅かに上昇

○ボランティア活動

- ・1年間に「ボランティア活動」を行った人は48万8千人、行動者率は30.7%で全国と比較し4.4ポイント高い

- ・行動者率は「子供を対象とした活動」、「災害に関係した活動」で5年前より上昇
- ・「災害に関係した活動」の行動者率は全ての年齢階級で全国を下回っている
- ・平均行動日数は「障害者を対象とした活動」が56.9日と最も多い
- ・「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に加入しての活動の行動者率が15.1%と最も高い

○スポーツ

- ・1年間に「スポーツ」を行った人は95万9千人、行動者率は60.3%で5年前より5.1ポイント低下
- ・行動者率は全ての種類の「スポーツ」で5年前より低下

○趣味・娯楽

- ・1年間に「趣味・娯楽」を行った人は126万1千人、行動者率は79.3%で全国より5.5ポイント低い
- ・行動者率は全体的に5年前より低下傾向、「美術鑑賞」は僅かに上昇

○旅行・行楽

- ・1年間に「旅行・行楽」を行った人は107万6千人、行動者率は67.7%で5年前より3.4ポイント低下
- ・行動者率は「観光旅行（国内）」が38.9%、「観光旅行（海外）」4.7%
- ・「観光旅行（海外）」の行動者率は、男性は55～64歳で最も高く、女性は25～34歳で最も高い
- ・5年前と比較すると、全体では「観光旅行（海外）」の女性については0.1ポイント高くなったが、それ以外では低下している

3 今後の結果公表予定（総務省統計局）

- ①調査票Aの生活時間に係る集計結果・・・平成24年9月
- ②調査票Bの生活時間に係る集計結果・・・平成24年12月

◆詳細データについては、総務省統計局ホームページをご覧ください。

ホームページアドレス (<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/index.htm>)

結 果 の 概 要

－利用上の主な用語－

- 行動者数・・・過去1年間（平成22年10月20日から平成23年10月19日まで）に該当する種類の活動を行った人（10歳以上）の数
- 行動者率・・・10歳以上人口に占める行動者数の割合（%）

－利用上の注意－

- 1 ポイント差、構成比等の比率は、表章数値から算出している。
- 2 本文中の各活動の種類名については、一部省略をしている。

1 学習・自己啓発・訓練

- (1) 1年間に「学習・自己啓発・訓練」を行った人は47万9千人、行動者率は30.2%
で全国より5.0ポイント低い

「学習・自己啓発・訓練」について、過去1年間（平成22年10月20日～23年10月19日。以下同じ。）に何らかの種類の活動を行った人（10歳以上）の数（行動者数。以下同じ。）は47万9千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率。以下同じ。）は、30.2%となっており、全国と比較すると全体で5.0ポイント低く、全ての年齢階級で全国を下回っている。（図1-1）

男女別にみると、行動者数は男性が21万7千人、女性が26万3千人となっており、行動者率は男性が29.1%、女性が31.1%で、女性が男性より2.0ポイント高くなっている。

男女別に見ると、75歳以上を除く全ての年齢階級で女性の方が高くなっている。（図1-2）

図1-1 学習・自己啓発・訓練の年齢階級別行動者率(全国、熊本県)

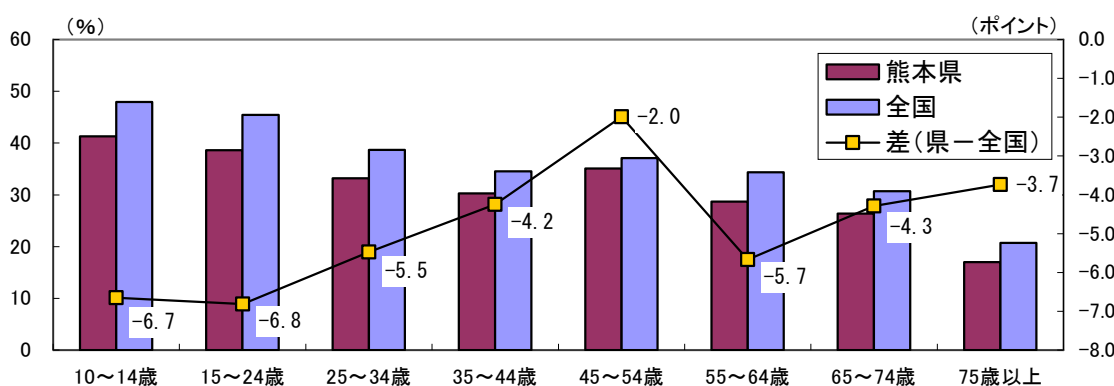
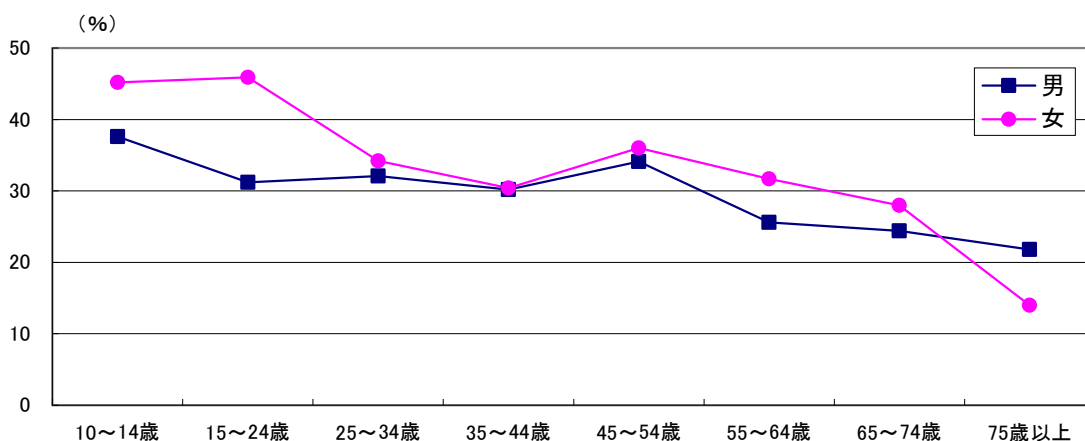


図1-2 「学習・自己啓発・訓練」の男女、年齢階級別行動者率



(2) 行動者率は「介護関係」、「英語以外の外国語」で5年前より僅かに上昇

「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を種類別に見ると、「パソコンなどの情報処理」が10.4%と最も高く、次いで「芸術・文化」及び「家政・家事」が7.3%となっている。

これを平成18年と比べると、「パソコンなどの情報処理」は変わらず、「芸術・文化」が1.9ポイント低下、「家政・家事」が1.3ポイント低下、「英語」が0.7ポイント低下、「介護関係」が1.0ポイント上昇、「商業実務・ビジネス関係」が2.0ポイント低下、「英語以外の外国語」が0.2ポイント上昇となっている。(図1-3)

男女別にみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が12.7%と最も高く、次いで「人文・社会・自然科学」が6.1%、「商業実務・ビジネス関係」が5.7%、「英語」が5.5%などとなっている。女性は「家政・家事」が11.1%と最も高く、次いで「芸術・文化」が9.4%、「パソコンなどの情報処理」が8.4%、「英語」が7.0%などとなっている。

(図1-4)

図1-3 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率(平成18年、23年)

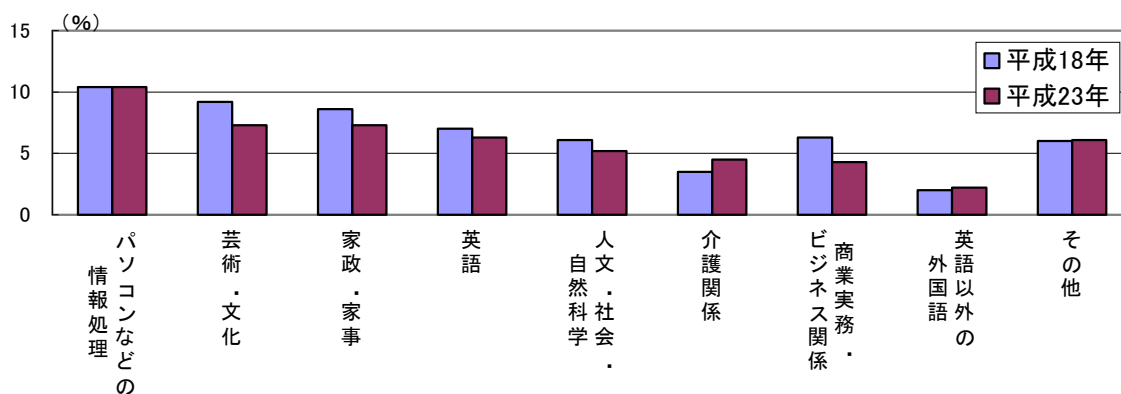
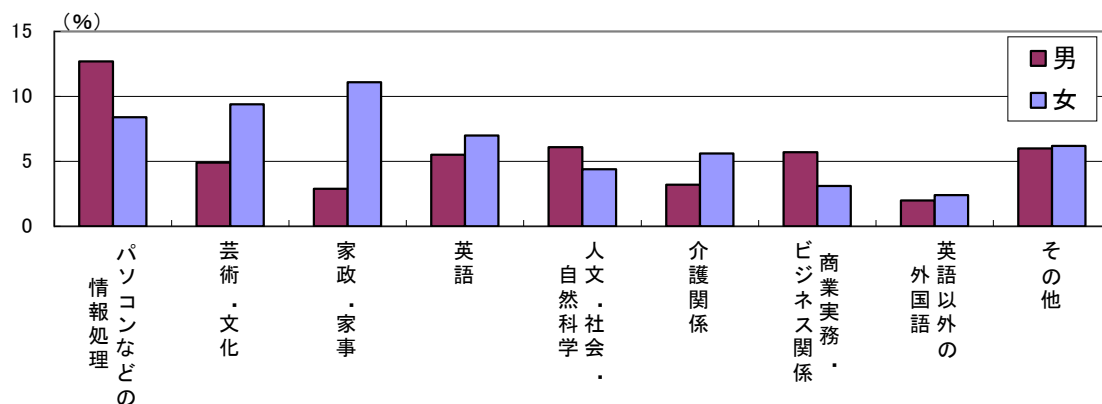


図1-4 「学習・自己啓発・訓練」の種類、男女別行動者率



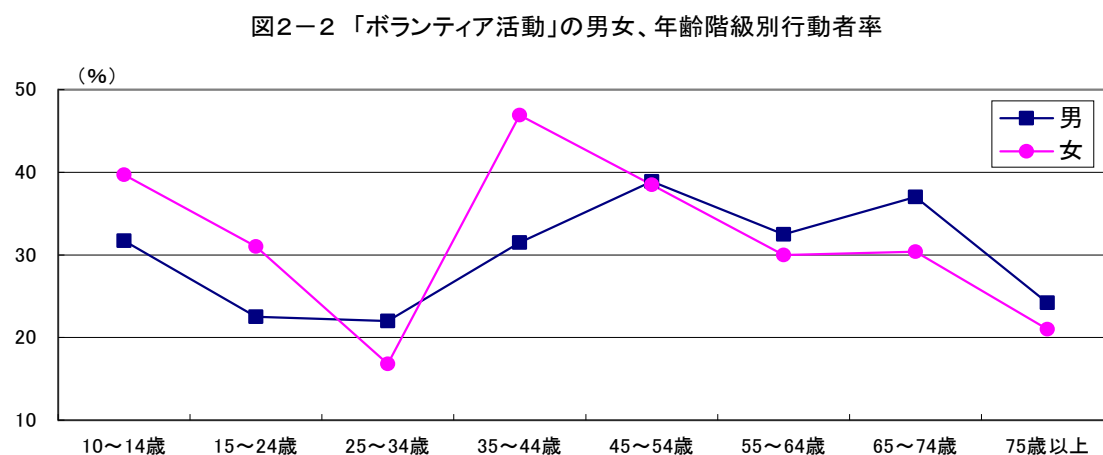
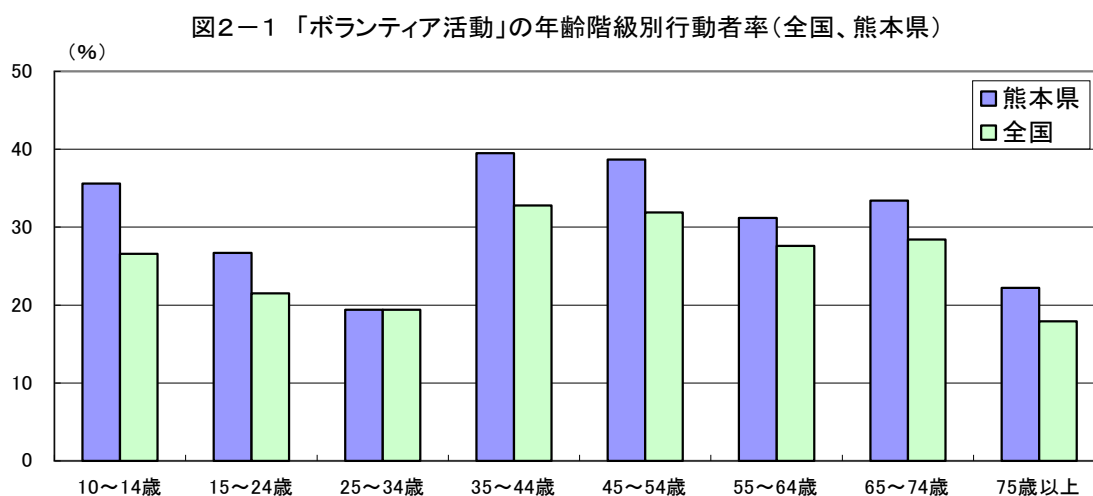
2 ボランティア活動

(1) 1年間に「ボランティア活動」を行った人は48万8千人、行動者率は30.7%で全国と比較し4.4ポイント高い

「ボランティア活動」の行動者数は48万8千人で、行動者率は30.7%となっており、全国と比較し4.4ポイント高くなっている。また、年齢階級別では35～44歳が39.5%と最も高くなっている。(図2-1)

男女別にみると、行動者数は男性が22万6千人、女性が26万2千人となっており、行動者率は男性が30.3%、女性が31.0%で、女性が男性より0.7ポイント高くなっている。

年齢階級別にみると、男性では45～54歳が38.9%と最も高く、女性では35～44歳が46.9%と最も高く、逆に男性では25～34歳が22.0%と最も低く、女性でも25～34歳が16.8%と最も低くなっている。(図2-2)



(2) 行動者率は「子供を対象とした活動」、「災害に関係した活動」で5年前より上昇

「ボランティア活動」の行動者率を種類別にみると、「まちづくりのための活動」が15.4%と最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が10.1%などとなっている。これを平成18年と比べると、「子供を対象とした活動」で3.7ポイント、「災害に関係した活動」で1.0ポイント上昇している。(図2-3)

男女別にみると、男性は「まちづくりのための活動」が16.7%と最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が8.0%などとなっている。女性でも「まちづくりのための活動」が14.3%と最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が12.0%などとなっている。

(図2-4)

図2-3 「ボランティア活動」の種類別行動者率(平成18年、23年)

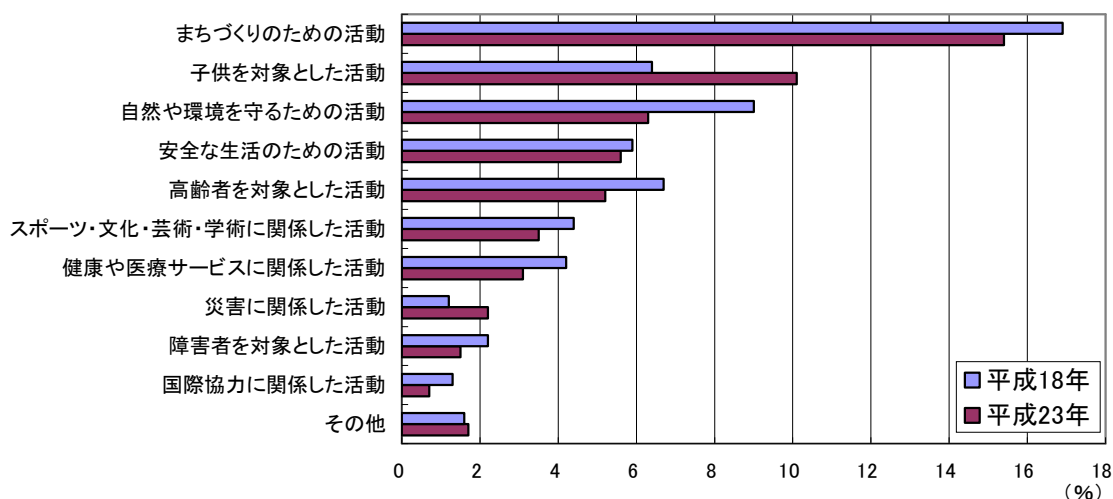
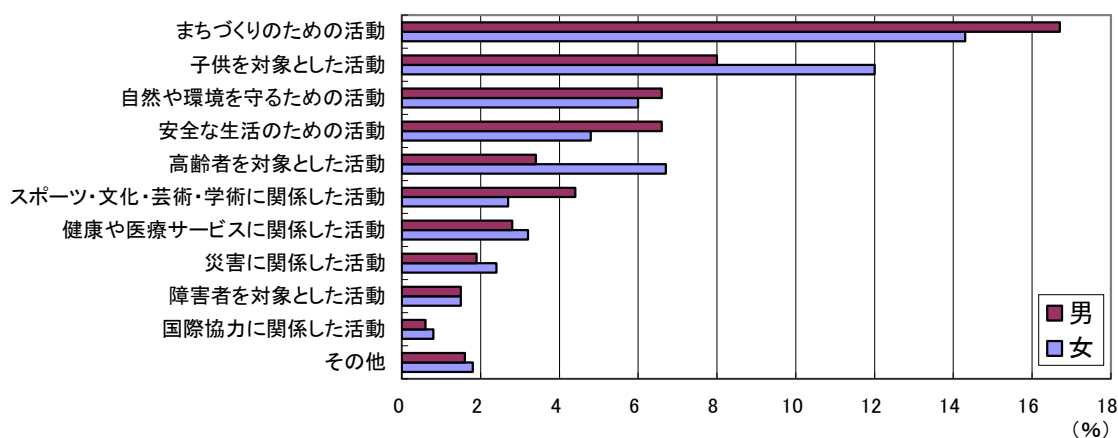


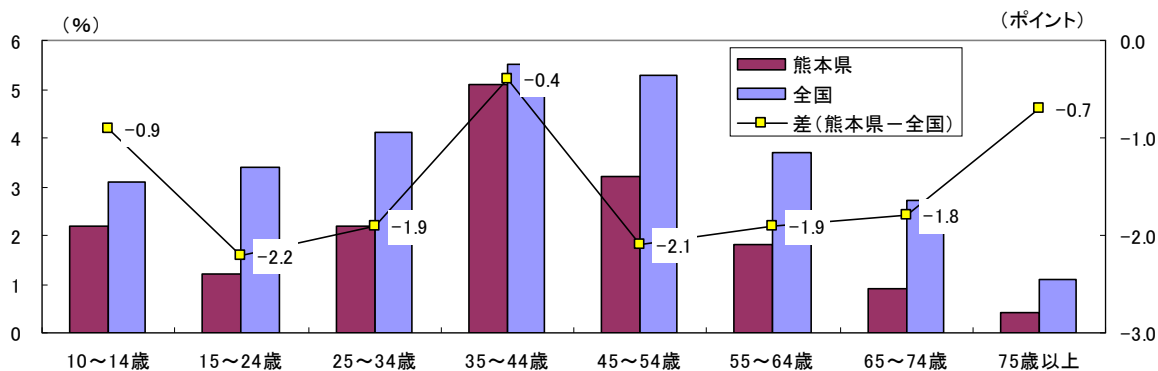
図2-4 「ボランティア活動」の種類、男女別行動者率



(3) 「災害に関係した活動」の行動者率は全ての年齢階級で全国を下回っている

「災害に関係した活動」の行動者率を年齢階級別に全国と比べると、全ての年齢階級で全国を下回っており、特に15～24歳で2.2ポイント下回っている。(図2-5)

図2-5 「災害に関係した活動」の年齢階級別行動者率(全国、熊本県)

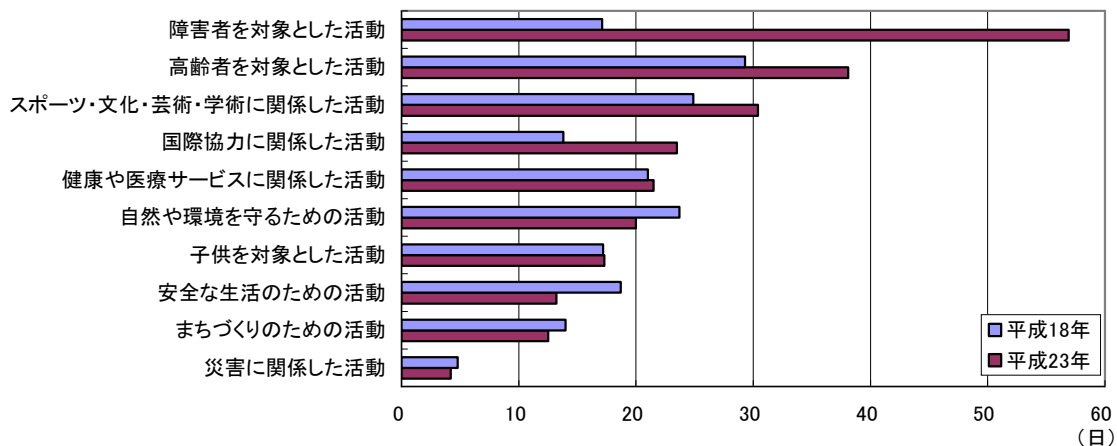


(4) 平均行動日数は「障害者を対象とした活動」が56.9日と最も多い

行動者について平均した過去1年間の行動日数(平均行動日数。以下同じ。)を種類別にみると、「障害者を対象とした活動」が56.9日と最も多く、次いで「高齢者を対象とした活動」が38.1日、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が30.4日などとなっており、「災害に関係した活動」が4.2日と最も少なくなっている。

平成18年と比べると「障害者を対象とした活動」が39.8日増加、「国際協力に関係した活動」が9.7日増加などとなり、「安全な生活のための活動」が5.5日減少、「自然や環境を守るための活動」が3.7日減少などとなっている。(図2-6)

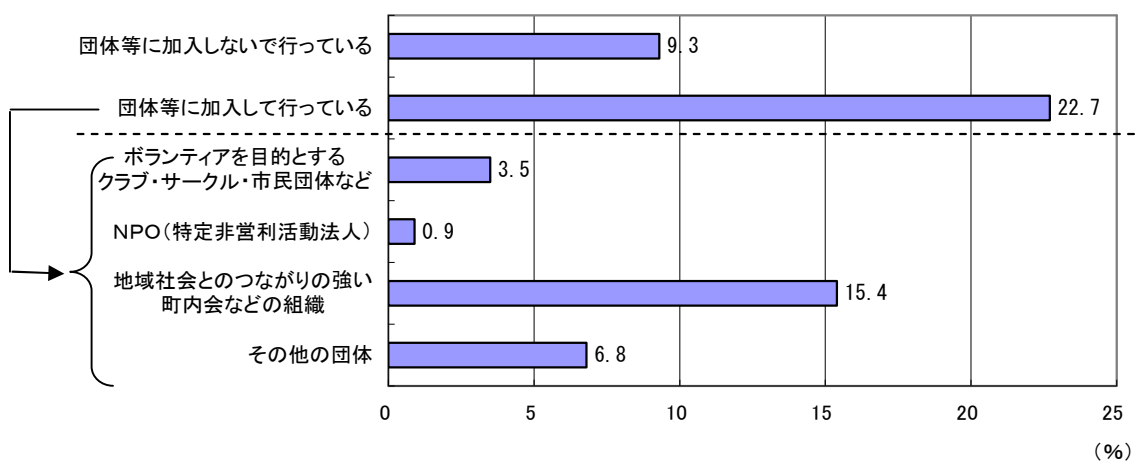
図2-6 「ボランティア活動」の種類別平均行動日数(平成18年、23年)



(5) 「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に加入しての活動の行動者率が15.1%と最も高い

「ボランティア活動」の行動者率を形態別にみると、団体等に加入して行っている活動が、加入しないで行っている活動よりも高くなっている。団体等に加入して行っている活動を形態別にみると、「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に加入して行っている活動が最も高く、次いで「その他の団体」に加入して行っている活動などとなっている。(図2-7)

図2-7 「ボランティア活動」の形態別行動者率



注) 複数回答あり。

3 スポーツ

- (1) 1年間に「スポーツ」を行った人は95万9千人、行動者率は60.3%で5年前より5.1ポイント低下

「スポーツ」の行動者数は95万9千人で、行動者率は60.3%となっている。男女別にみると、行動者数は男性が49万人、女性が46万9千人となっており、行動者率は男性が65.8%、女性が55.5%で、男性が女性より10.3ポイント高くなっている。

行動者率は平成18年と比べると、5.1ポイント低下している。これを男女別にみると男性が5.9ポイント低下、女性が4.3ポイント低下している。

年齢階級別にみると、10～14歳が92.6%と最も高く、年齢が高くなるにつれておおむね低下している。平成18年と比べると15～24歳の階級から55～64歳までの階級で低下している。(図3-1)

男女別にみると、15～24歳と35～44歳の階級を除き男性の方が高くなっている。(図3-2)

図3-1 「スポーツ」の年齢階級別行動者率(平成18年、23年)

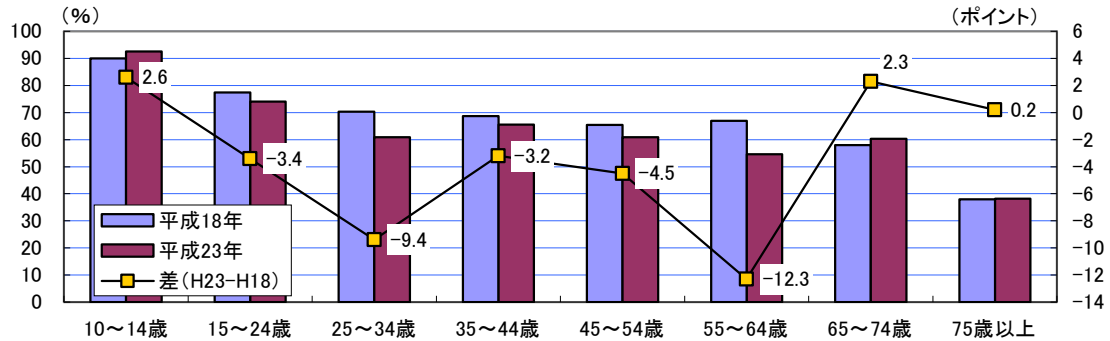
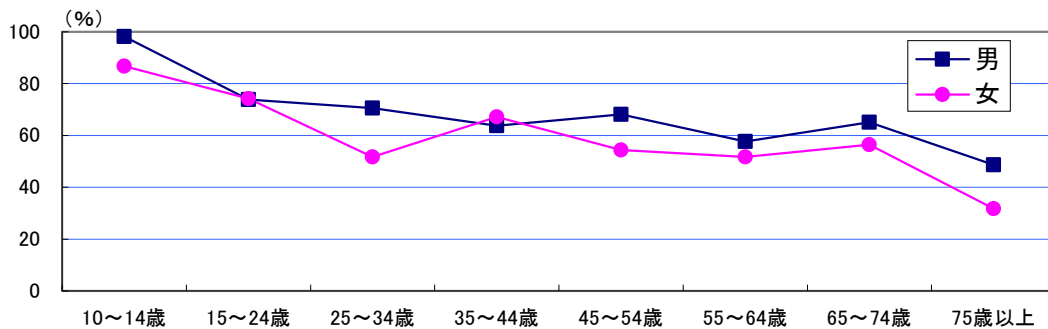


図3-2 「スポーツ」の男女、年齢階級別行動者率



(2) 行動者率は全ての種類の「スポーツ」で5年前より低下

「スポーツ」の行動者率を種類別にみると、「ウォーキング・軽い体操」が32.3%と最も高く、次いで「つり」が11.8%などとなっている。これを平成18年と比べると、「ボウリング」が7.2ポイント低下、「水泳」が2.9ポイント低下、「ウォーキング・軽い体操」が2.6ポイント低下などとなっており、全ての種類で低下している。

(図3-3)

男女別にみると、男女共に「ウォーキング・軽い体操」が最も高く、次いで男性は「つり」、「野球」などとなっており、女性では「ボウリング」、「器具を使ったトレーニング」などとなっている。(図3-4)

図3-3 「スポーツ」の種類別行動者率(平成18年、23年)

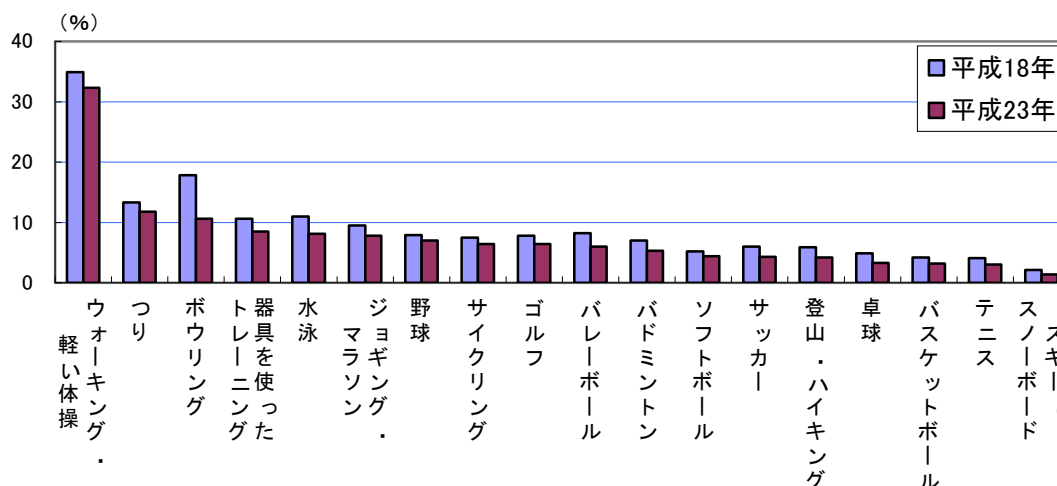
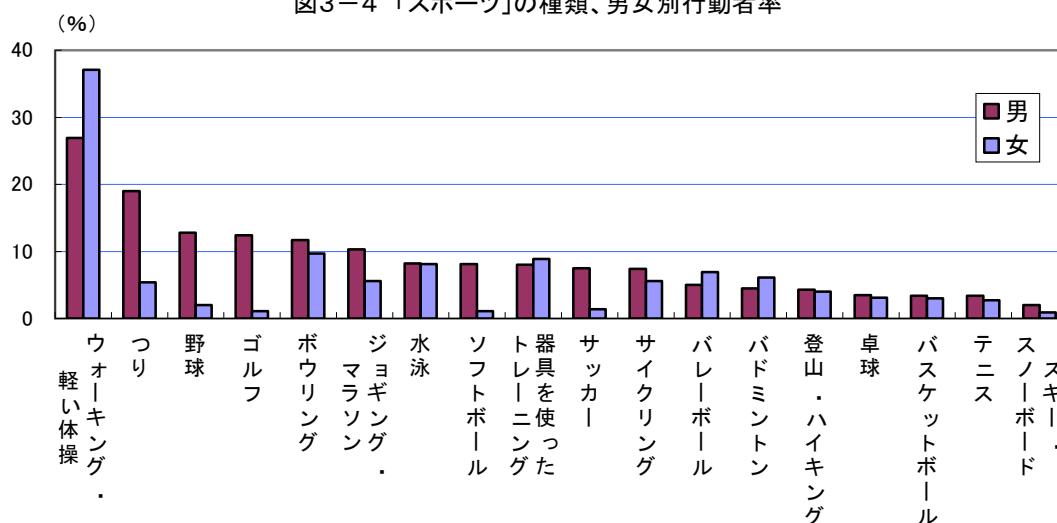


図3-4 「スポーツ」の種類、男女別行動者率



注) 行動者率の上位18種類を表章。

4 趣味・娯楽

(1) 1年間に「趣味・娯楽」を行った人は126万1千人、行動者率は79.3%で全国より5.5ポイント低い

「趣味・娯楽」の行動者数は126万1千人で、行動者率は79.3%となっている。男女別にみると行動者数は男性が59万4千人、女性が66万7千人となっており、行動者率は男性が79.7%、女性が79.0%で、男性が女性より0.7ポイント高くなっている。

年齢階級別にみると、10～14歳が91.8%と最も高く、年齢が高くなるにつれておおむね低下している。(図4-1)

男女別にみると、15～24歳、25～34歳、55～64歳では女性の方が高く、それ以外の階級では、男性が高くなっている。(図4-2)

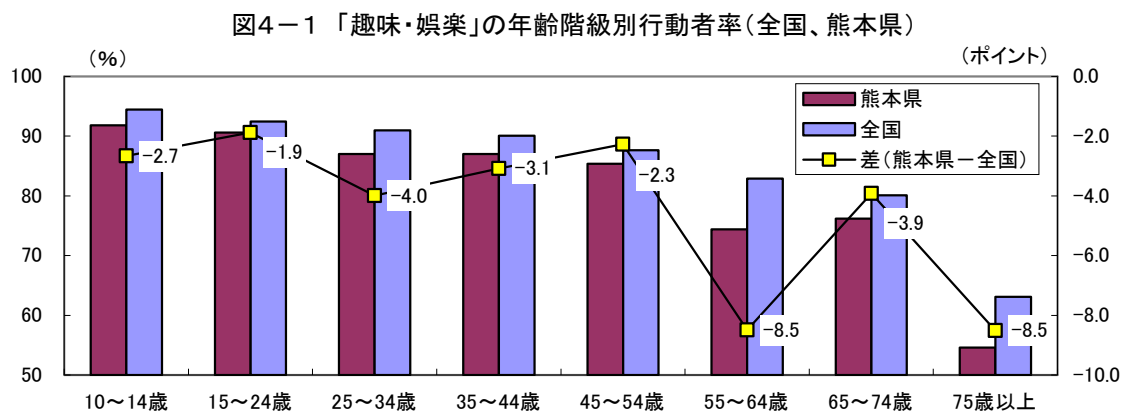
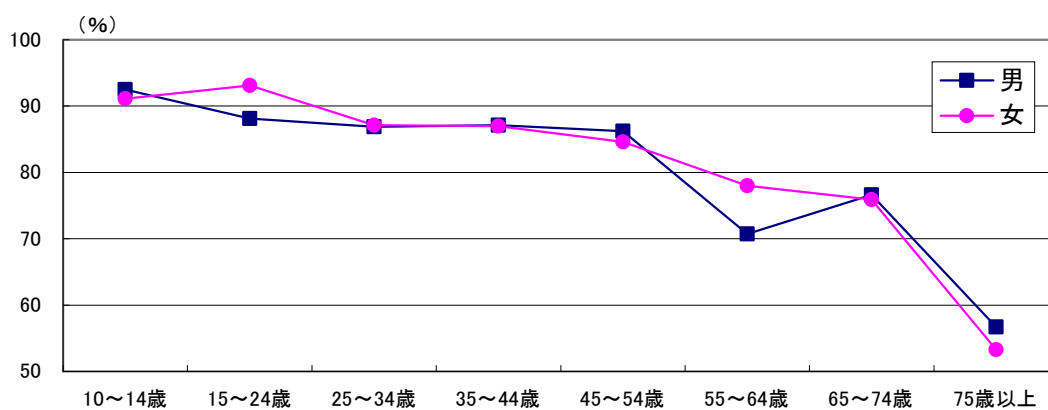


図4-2 「趣味・娯楽」の男女、年齢階級別行動者率



(2) 行動者率は全体的に5年前より低下傾向、「美術鑑賞」は僅かに上昇

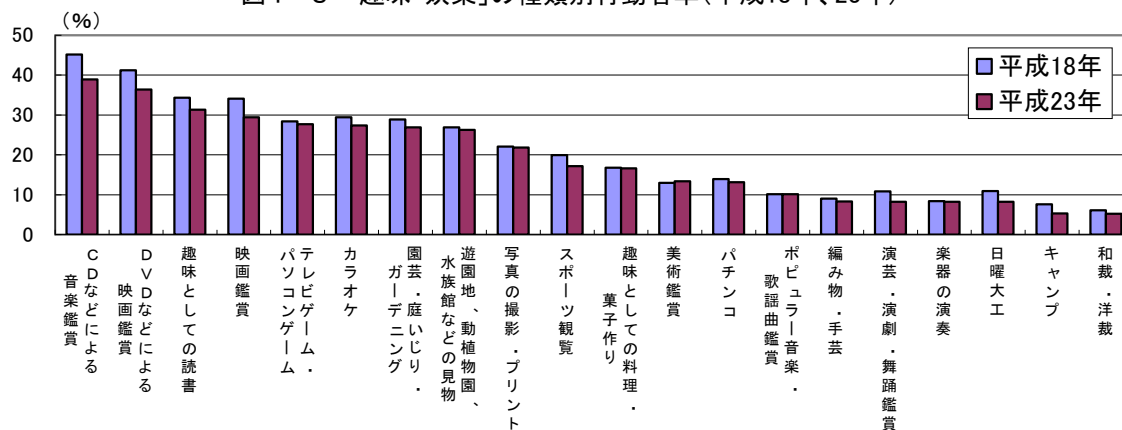
「趣味・娯楽」の行動者率を種類別にみると、「CDなどによる音楽鑑賞」が38.9%と最も高く、次いで「DVDなどによる映画鑑賞」が36.4%、「趣味としての読書」が31.3%などとなっている。これを平成18年と比べると「CDなどによる音楽鑑賞」が6.3%低下、「DVDなどによる映画鑑賞」が4.8%低下などとなっており、ほとんどの種類で低下している。一方、「美術鑑賞」は0.4ポイント僅かに上昇している。

(図4-3)

男女別にみると、男性は「DVDなどによる映画鑑賞」が35.4%と最も高く、次いで「CDなどによる音楽鑑賞」が35.2%、「テレビゲーム・パソコンゲーム」が32.6%などとなっている。女性は「CDなどによる音楽鑑賞」が42.3%と最も高く、次いで「趣味としての読書」が37.5%、「DVDなどによる映画鑑賞」が37.2%などとなっている。

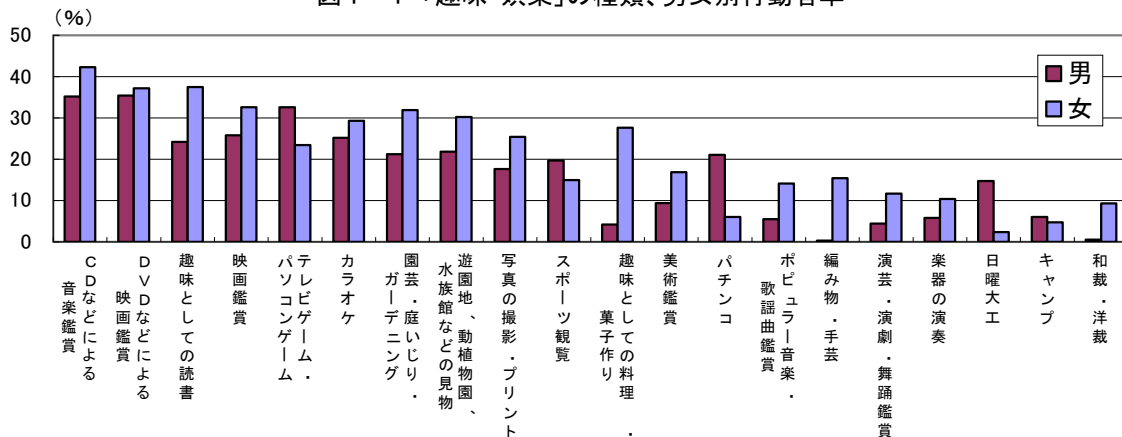
(図4-4)

図4-3 「趣味・娯楽」の種類別行動者率(平成18年、23年)



注) 行動者率の上位20種類を表章。

図4-4 「趣味・娯楽」の種類、男女別行動者率



注) 行動者率の上位20種類を表章。

5 旅行・行楽

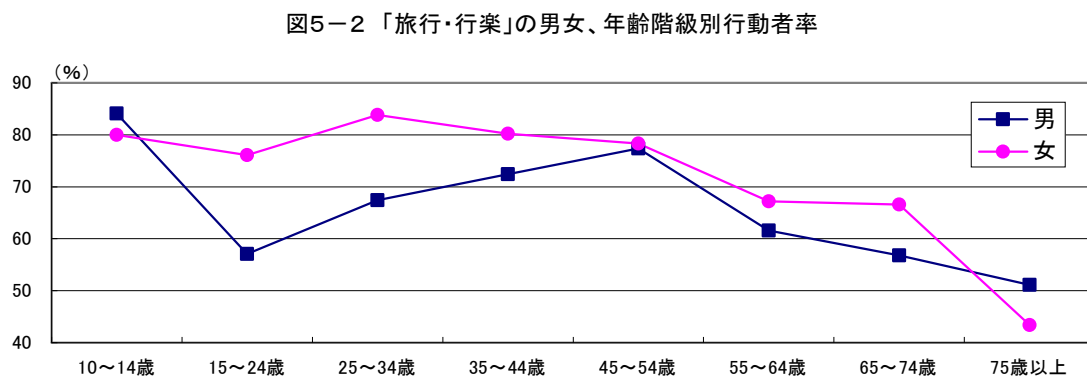
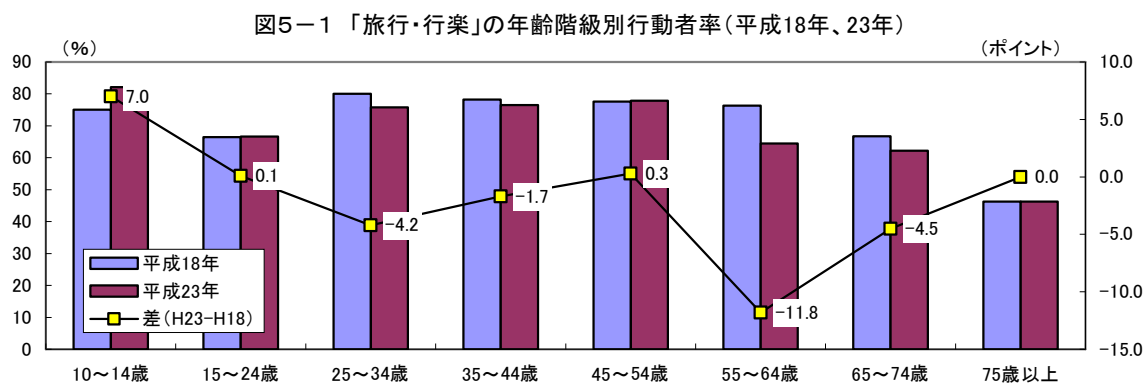
(1) 1年間に「旅行・行楽」を行った人は107万6千人、行動者率は67.7%で5年前より3.4ポイント低下

「旅行・行楽」の行動者数は107万6千人で、行動者率は67.7%となっている。男女別にみると、行動者数は男性が48万6千人、女性が59万1千人となっており、行動者率は男性が65.2%、女性が70.0%で、女性が男性より4.8ポイント高くなっている。

行動者率は平成18年と比べると3.4ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が4.3ポイント低下、女性が2.6ポイント低下している。

年齢階級別にみると、10～14歳が82.1%と最も高く15～24歳で66.6%と大きく低下するが、25～34歳から年齢が高くなるにつれて上昇して45～54歳で77.9%となり、55歳以上は年齢が高くなるにつれて低下している。(図5-1)

男女別にみると、10～14歳と75歳以上を除く全ての年齢階級で女性の方が高くなっている。(図5-2)



(2) 行動者率は「観光旅行（国内）」が38.9%、「観光旅行（海外）」4.7%

「旅行・行楽」の行動者率を種類別にみると、「行楽（日帰り）」が55.4%、観光旅行では国内が38.9%、海外が4.7%となっている。これを平成18年と比べると、「観光旅行（国内）」が1.4ポイント低下、「行楽（日帰り）」が1.5ポイント低下などとなっており、全ての種類で低下している。（図5-3）

男女別にみると、国内及び海外の「業務出張・研修・その他」を除き、全ての種類で女性の方が高くなっている。（図5-4）

図5-3 「旅行・行楽」の種類別行動者率(平成18年、23年)

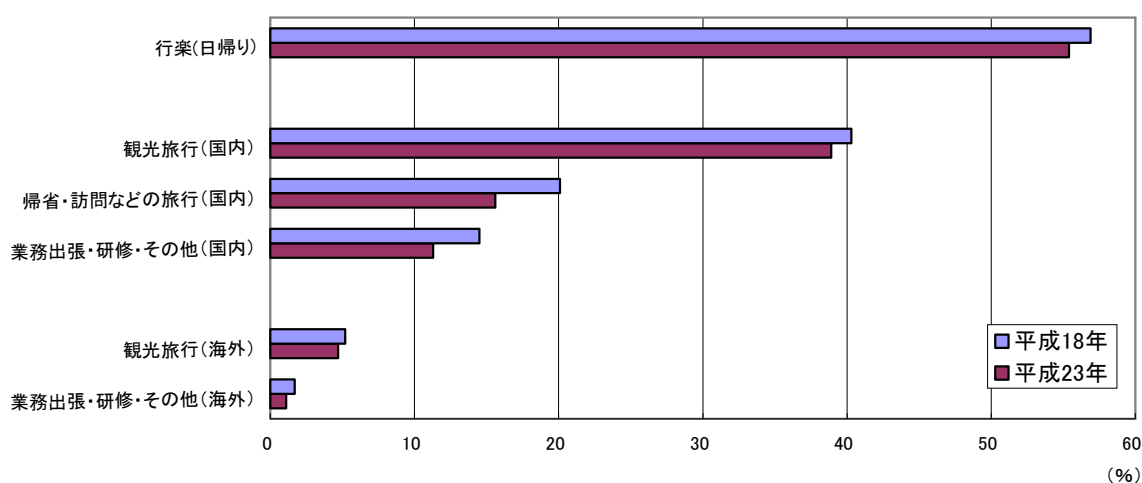
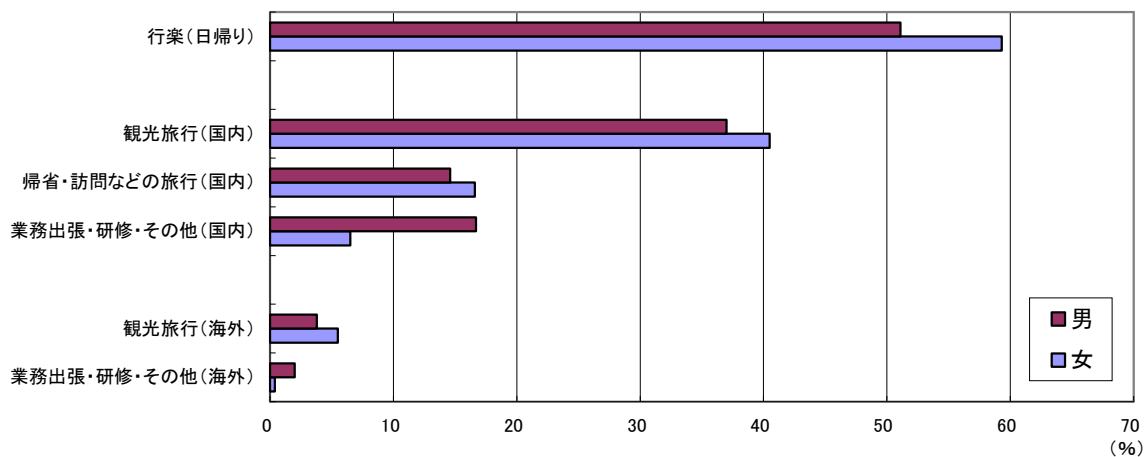


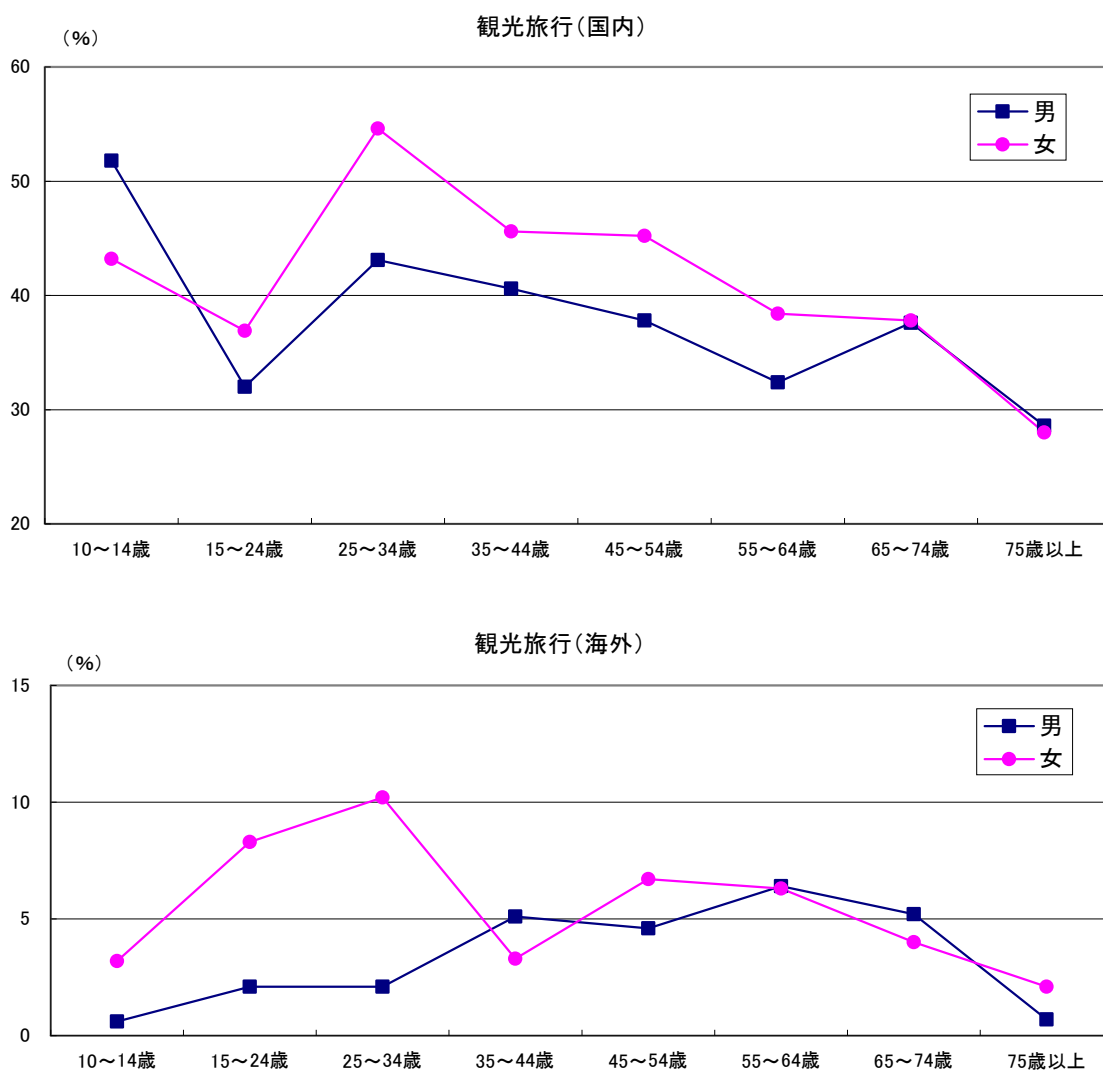
図5-4 「旅行・行楽」の種類、男女別行動者率



(3) 「観光旅行（海外）」の行動者率は、男性は55～64歳で最も高く、女性は25～34歳で最も高い

「観光旅行（国内）」の行動者数を男女、年齢階級別にみると、男性は10～14歳で最も高く、女性は25～34歳で最も高くなっている。「観光旅行（海外）」は、男性は55～64歳で最も高く、女性は25～34歳で最も高くなっている。（図5-5）

図5-5 「観光旅行」の男女、年齢階級別行動者率



(4) 5年前と比較すると、全体では「観光旅行（海外）」の女性については0.1ポイント高くなったが、それ以外では低下している

「旅行・行楽」の行動者率（15歳以上）を種類別、男女、年齢階級別に5年前と比較すると、「観光旅行（国内）」では男性全体で0.3ポイント低下、女性全体で2.4ポイント低下、「観光旅行（海外）」では男性全体で1.2ポイント低下しているが、女性全体では0.1ポイント高くなっている。（図5-6）

図5-6 「旅行・行楽の」の種類、男女、年齢階級別行動者率（平成18年、23年）

